10月15日（日）
ホームカミングデー
第31回　同窓生の集い

無料ご招待！

卒業1年（75期 令和5年卒：新入会員）卒業2年（74期 令和4年卒：新入会員）

卒業25年（47期・48期・49期　平成7・8・9年卒）

卒業50年（22期・23期・24期　昭和45・46・47年卒）

・50期・25期につきましては、令和６年度「第32回同窓生の集い」でご招待いたします。

“同窓生の集い”は招待期の皆様を中心に、母校文京高校を舞台に同窓生の交流の場として毎年開催され、懐かしい恩師も多数出席され、多くの年代の交流の場として賑っています。
一昨々年、一昨年、に続き昨年も残念ながら感染症パンデミックによる行動制限等のために３年連続して開催ができませんでしたが、今年は新型コロナウィルス感染症法上の分類も「２類」から季節性インフルエンザと同じ「５類」に行動規制も解除となりました。今年こそは開催！とスタッフ一丸となって準備をしております。皆様、同級生やクラブの仲間と誘い合って是非ご参加ください。

- ● 開催日時　令和５年10月15日（日）午後２時～午後４時
- ● 集合時間　招待期・教員：午後１時受付開始、午後１時半より記念撮影開始
  一般同窓生：午後１時半受付開始
- ● 場　　所　母校体育館
- ● 会　　費　一般同窓生：1,000円（当日受付にてお支払い）
  招待期・教員・卒後50年以上の方は無料です
- ● 申し込み　招待期：各期世話人又は同窓会HPよりお申し込み
  一般同窓生：同窓会HPよりお申込み（名札をご用意いたします）
  ※なお、当日参加も歓迎いたします
- ● 飲　　食　軽食とお飲み物の用意をしております（学校内禁酒・禁煙です）

歓談のひと時、目の前の学友と共に学生時代にタイムスリップ？？

●学校への電話での問い合わせはご遠慮ください。
学校は同窓会のことは答えられませんので、お問い合わせにつきましては、同窓会ホームページか学校宛の手紙・ハガキでお願いします。

同窓会ホームページ　集い参加申込ページ

〈プライバシーポリシー〉　同窓会が保有している住所等の情報は紫筍郵送、同窓会、同期会等の連絡にのみ使用し、ご本人に確認することなく、そのほかの用途には使用いたしません。

文京高等学校同窓会会報紫筍 66 号　令和５年６月１日発行　発行人：榊　恒一　編集人：中嶋美地世　編集協力：兼坂ひろみ
発行：東京都立文京高校同窓会　〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 1-1-5　東京都立文京高等学校内　印刷：恵雅堂出版株式会社

第66号 ● 令和５年刊

紫筍
SHIJUN

第31回 東京校歌祭に参加

東京都立文京高等学校同窓会誌

http://www.bunkyo-ob.net/　文京高校同窓会　検索

紫筍（しじゅん）はスクールカラーの紫と若竹のようにすくすくと躍進する筍から名付けられました。

東京都立文京高等学校
同窓会 会長
榊　恒一　26期F組

会長挨拶

本年はコロナウイルスによる活動自粛も穏やかになり本来の行事を実施できると期待しています。４月16日に「総代会」を開催して本年度の行事の承認をいただきました。

その中で同窓生の方が参加していただける行事として「第31回同窓生の集い」、文京高校「紫雲祭」、「第31回東京校歌祭」、「交流会支援」などがあります。いずれも本誌、ホームページで詳細を御確認の上参加をお願いいたします。

在校生への支援については母校とも相談の上進めていきます。

ご寄付いただいている奨学金は「難関大学進学者奨学金」「チャレンジ奨学金」「卒年成績優秀者・皆勤者表彰」に使わせていただいております。（詳細は本誌参照）

また今年は348名が文京高校を卒業し卒業生は合計で26,480名となりました。

より良い同窓会としていくために会員の皆さまには運営スタッフとしてお手伝いをしていただきたいと思います。ぜひホームページのお問い合わせよりご連絡を下さい。

今後も役員・常任幹事は皆さまのご支援・ご協力をいただき同窓会の運営に努めてまいります。

副会長就任のご挨拶

隅田 彰子　25期Ｇ組

数年前に学年幹事を引き受けるまでは住所不明者でした…。まじめに参加していたら（?）いつの間にかこんな立場になってしまいました。

もっと若い世代の皆さんにご参加いただき、楽しく同窓会活動を広げていきたいと思っています。

小川 智美　36期Ｅ組

同窓会活動に参加するようになり、同窓生の母校愛を身近に感じる機会が増えました。

「文京魂」を大切に、同窓会の発展をサポートしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

爲國 孝久　42期Ｄ組

今年で52歳となりますが、文京生時代は演劇部でした。台本を作るために当時は珍しかった職員室のワープロを顧問の先生に使わせていただきました。そんな縁もあって、現在、仕事では食品会社の海外子会社のＩＴマネージャーをさせていただいております。仕事で培ったＩＴ、パソコンの知識が同窓会の活動に少しでもお役に立てれば幸いです。文京高校同窓会は他の都立高校に比べて活発に活動しています。多くの方に関わっていただいています。皆さんのお役に立てるよう、また、これから未来も文京高校の同窓会が永く存続できるよう微力ながら協力させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

目次

会長挨拶 …… 2
副会長就任のご挨拶 …… 2
校長挨拶 …… 3
特集・母校と渋沢栄一翁との縁 …… 4
あのころの文京 …… 7
文京生の絆・三遊亭圓窓と「笑涯楽習」の会 …… 8
文京生の絆・美術部OBの会「ともっち」 …… 9
在校生野球部について …… 10
コロナ禍の紫雲祭について …… 11
令和５年度事業　褒賞金授与者、大学合格者数 …… 12
教職員人事異動、東京校歌祭に参加して …… 13
寄付者一覧 …… 14
決算予算、事業報告 …… 15
学年幹事 …… 16
役員・常任幹事、総代会報告 …… 17
同窓会活動へのお誘い …… 18

同窓会の皆様へ

東京都立文京高等学校
校　長
岡 田 正 治

令和５年度の始まり

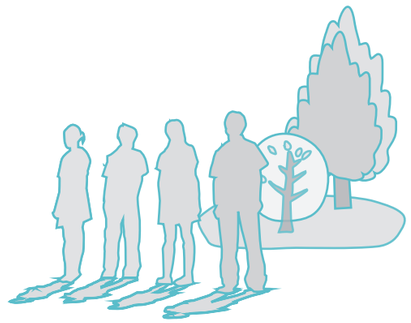
令和２年から日本国内で感染が拡大した新型コロナウイルス感染症も、本年５月８日に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」上の位置付けの見直しが行われる予定となり、これまで学校の教育活動に大きな影響や制限を受けていた対応が、徐々に緩和されつつある中で令和５年度がスタートしました。

３月18日に挙行した75期生の卒業式では、348名の卒業生が、至誠一貫の校訓のもとコロナ禍での様々な困難に打ち勝ち、立派に本校を巣立っていきました。４月７日に挙行した78期生の入学式では、355名の新入生が、伝統ある文京高校の生徒として、高校生活の第一歩を踏み出しました。いずれの式も、４年ぶりに参列者の制限なく実施することができ、御来賓として同窓会から榊恒一会長の御臨席を賜り、盛大に式を挙行することができました。入学式の前日に行った令和５年度始業式は、これまでコロナの影響により放送で式を行っていましたが、４年ぶりに対面で行い、壇上からの自治会会長の司会で静粛となり、校歌を斉唱して式を始めるという文京高校本来の始業式を行うことができました。

これまで、新型コロナウイルス感染症による様々な活動の中止や制限があり、伝統の継承という部分に影響を及ぼすのではないかと心配してきましたが、昨年度の体育祭、紫雲祭、修学旅行等の学校行事や部活動などでの生徒の様子を見ると、コロナ禍でも確実に文京生へと立派に成長していることが実感できました。

学習面においても、主体性と集中力による学習が、伝統ある進学校としての進学実績に結びついています。ここ３年間での進学実績は大きく伸び、国公立大学38→29→27人、早慶上理42→39→25人、ＧＭＡＲＣＨ213→274→263人と、多くの生徒が難関上位校に合格しています。現在文京生は、より高い目標を掲げ、文京での学びが難関上位校合格に結びつくという文京スタンダードのもと、日々学習に意欲的に取り組んでいます。同窓会から毎年、国公立大学及び難関私立大学への進学者に対して贈呈していただいている奨学褒賞金授与制度も、高い目標の実現に向け努力を重ねる文京生の大きな励みになっています。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響により、至誠一貫の校訓のもとひたすらに実践する後輩の姿に触れていただく機会が大きく減ってしまいました。しかし、ようやく明るい兆しが見える中で令和５年度をスタートすることができました。同窓会の皆様におかれましては、文京高校の83年の伝統を受け継ぎ新たな歴史を築こうと成長を続ける後輩たちに、引き続きの御支援をよろしくお願い申し上げます。



特集★

母校と渋沢栄一翁との縁

至誠一貫、歴史の流れ

来年から刷新される新壱万円札の肖像、NHK大河ドラマ「晴天を衝け」の主人公など、渋沢栄一ブームだ。この渋沢翁と母校が浅からぬ縁で結ばれていたことを、知る人は少ないのではないだろうか。

11期D組　簸　紘矢

「日本資本主義の父」

渋沢栄一翁は「日本資本主義の父」と言われる。東京商工会議所、東京証券取引所、現みずほ銀行やJR東日本、日本郵船、東京ガスといった多種多様な会社や経済団体の設立・経営に関わった。企業は約500社にもおよぶ。

これほどの業績を残しながら、余り注目されなかったのは渋沢翁が自身の功績を財閥化しなかったためとも言われる。明治政府は富国強兵のもと日清、日露戦争で領土を拡大したが、経済政策は二の次だったこともある。

渋沢に先行した田沼意次の経済改革

話は少しそれるが、実は渋沢翁の100年前に日本経済の近代化を進めていた男がいた。八代将軍徳川吉宗に見出された田沼意次だ。田沼意次というと、江戸中期の悪徳側用人と言われ、現在まで悪名のレッテルを貼り続けられている。しかし最近の研究で、重農主義から重商主義に転換を進め、自由貿易による幕府財政の立て直しを計画していたことが判明してきた。

しかし当時の旧主派一橋治済、松平定信、三井・鴻池らの豪商の反対にあい政権を追われ、計画は頓挫した。（失脚後、松平定信らにより実績の文献は廃棄された。しかし交易国であったオランダには功績の資料が残っていた。秦新二、竹之下誠一著「海外文書から浮上する新事実：田沼意次　百年早い開国計画」に詳しい）。この時に開国していたら日本の歴史は大きく変わっていただろうと推測される。それが始まるのは渋沢栄一の登場を待つことになる。

東京府養育院の開設と院長就任

幕臣渋沢は大隈重信ら新政府からの要望で新政府に参画する。明治５年（1872）にロシア皇太子の来日が決まり、明治政府は対面上浮浪者や病弱者、孤児など路上生活者を東大赤門そばの加賀藩上屋敷の長屋に収容した。

その後明治８年（1875）に上野護国院に移転し「東京府養育院」となり、院長に渋沢栄一が就任した。これには前段がある。江戸時代、徳川吉宗は「目安箱」を設置。「身寄りのない年寄りを放っておくと病気になって死んでしまう」の意見に小石川養生所を作った。これは明治維新まで続き、不足分を埋めるために各町会が財源を支援していた。江戸の弱者のための金が、幕末に巨額の残金として残る。新政府は没収を試みたが、勝海舟が「江戸の市民が積み立てた金なんだから、江戸の市民に返してやってください」と。で、西郷が「よか。勝先生の言うのは正しい」と。

この時の東京（府）長、大久保忠寛（大久保一翁）が助成金の使い道について、委員会を設置。渋沢は委員長を頼まれる。

そしてかなりの部分をその養育院の拡充、建物補強、水道整備などに使い切る。併せて大久保府長に「養育院の初代の院長にして、終身職にしてもらいたい」と願い出る。「死ぬまでやる気か」「そうだ」と。結局、これが昭和６年（1931）、91歳で亡くなるまで続く。数多くの企業を起した渋沢の名刺の肩書は始終変わったが、養育院院長という肩書は一回も名刺からなくなることはなかったと言う。

これほど養育院にこだわったのは、慶応３年（1867）将軍慶喜の名代として訪欧使節団一員としてフランスに行く。「国を強くするには、政治や軍事よりも基盤となる経済を確立させなくてはならない」と学ぶ。さらにフランスには各町に慈善院あるのを知り、「働く力のない人は公的に面倒を見るのが当然」を知る。その思いが養育院院長への願望となった。

後ろの建物が創立時に使用していた校舎

一方養育院設置については東京府議会で「貧乏で働けなくない人を養育することは、結果的に怠け者を作る」と反対意見が出る。論語の素養を持つ渋沢は「政治は論語で言う仁に基づいて行うは当然」と公立で続けることを主張。渋沢の粘り強い訴えで明治23年（1890）東京市営となり、大塚辻町に施設を設置し児童百人を含む五百人を収容した。

東京大谷大学付属中学が、養育院分院が

現在の母校のある地には、昔、東京真宗大学（現：大谷大学）付属中学校があった。東本願寺が東京に設置した東京真宗大学が付属中学を設置するにあたり、西巣鴨の地に畑地約７千坪を購入。そこに中学校舎を建てた。ここが現在母校のある場所になる。

飛鳥山の「青淵文庫」。飛鳥山には渋沢の邸宅があり、その一角に渋沢の傘寿を祝い贈られた「青淵文庫」がある。この地には「渋沢栄一史料館」があり、今年養育院開設150年を記念して「養育院の『院長さん』渋沢栄一　父となり、祖父となり、曾祖父となり」の企画展が開かれた。

明治41年（1908）に付属中学は京都に戻ることになり明治42年（1909）にその跡地を東京養育院が購入。大人からの悪い感化を避けるためにその建物を巣鴨分院として開設し、児童を収容した。

渋沢は大正５年（1916）、76歳の時一切の経済上の要職から去って、以後社会事業に余命をささげた。巣鴨分院へは自宅の飛鳥山から月に一度は必ず訪ね児童に訓話していた。

またその間に高松宮宣仁親王殿下を迎え、児童たちと一緒に記念撮影された写真が残っている。90歳を過ぎてからは家に引きこもりがちになったが何時ものように巣鴨分院に行き、「国家・社会のために尽くすことは『その身自身の上にも幸福が来ることに繋がる。自己の努力によって自己を幸福にし、また国家を幸福にするやう心がけて貰ひたい』」と講話した。そして昭和６年（1931）91歳で他界した。西巣鴨の地は渋沢にとって縁の深い地であった。巣鴨分院はその後老朽化と周辺の繁華街化で昭和17年（1942）に練馬区石神井台に移転するが、一部は依然として西巣鴨に残った。その養育院分院の半分を使用して第三東京私立中学校が昭和15年（1940）に開校した。

昭和６年（1931）、最後となった分院での講話の時の記念写真。前列中央が渋沢栄一翁

「気は長く、勤めは固く、色薄く、食細くして、心広かれ」

養育院分院には渋沢翁の書による石碑があった。「気は長く、勤めは固く、色薄く、食細くして、心広かれ」。（渋沢翁は艶福家で認知した子供が20とも50人とも言われる。色薄くは自戒か）。校門の左手にあった養育院はしばらくして練馬区石神井台の石神井学園に移転した。昭和23年（1948）に児童福祉法が施行され東京都社会福祉事業団・石神井学園として、社会的擁護を必要とする子供たちの最後の砦としての役割を現在も続けている。石碑は今も石神井学園にある。

養育院分院の半分を使用して開校

その渋沢翁の深い思い入れの地に昭和15年（1940）４月18日に文京高校の前身、第三東京市立中学校が誕生した。戦前豊島区には男子の中等教育機関がなく、中学校への入学試験は激化。昭和15年皇紀二千六百年記念行事として設立を議決。昭和15年東京市で第三東京市立中学校の新設が３月に急遽認められ、４月18日現在の地である豊島区の養育院巣鴨分院の半分を使って設立が決定した。定員は一学年200名、合計1000名（５年制）。

昭和15年創立当初の先生方と校舎

第一東京市立中学学校（現：千代田区立九段中等教育学校）の川島源司教頭が本校初代校長（昭和15～20年）として就任。校長・教師９名の下で昭和15年４月30日、第一期生221名による入学式が行われ開校した。

「至誠一貫」を校訓とした

川島校長は「何事も誠の心を持ち、ひたすら実践せよ」と「至誠一貫」を校訓とした。全ての活動はここに発しここに終わるという気風を打ち立て、その理想は現在も文京の教育目標として受け継がれている。

創立時英語教師の佐々木益男先生は「昭和15年4月に開校、５月から養育院の半分を使用して授業が始まった。養育院の生徒が半分を使っており、寮生も保母もいたので、いささか不自由なこともあった」と後日懐述している。

西巣鴨の地は救済と福祉の地

昭和15年に開校した母校の校舎の源泉は、東京養育院巣鴨分院ではなく、東京真宗大学付属中学の建物だったと判明。

西巣鴨の母校の現在の地を振り返ると、「人を救うための勉学の地」であり、「日本の児童福祉の原点といえる地」であり、「日本の社会福祉の先駆者であった渋沢栄一翁の拠点」でもあった。

渋沢栄一翁との深い宿縁が

校訓「至誠一貫」は孟子の「至誠にして動かざる者いまだこれあらざるなり」によるものだ。「真心をもって一生を生きてゆく」と言う意味と言われる。

この校訓には、人を救う教え（東京真宗大学付属中学）、児童福祉（東京養育院分院）と院長を長きにわたり務めたびたび訪れた渋沢栄一翁の「論語」の「仁」にも相通ずる部分がある。「救済」、「福祉」、「仁」の流れをくむ土地に「至誠一貫」が誕生したのも偶然ではないのではないか。

「袖触れ合うも多生の縁」。見知らぬ人と袖が触れ合う程度のことも前世からの因縁による。細事も、人との交渉も偶然に起こるのではなく、すべて深い宿縁によって起こるという意味。それ故母校と渋沢栄一翁とは深い宿縁で結ばれていると言えるだろう。

創立時には規律正しい中にも自由な雰囲気のなかで、新進の指導者も集まり、先輩には文化功労賞を受賞した佐藤幹夫京大名誉教授（二期Ｄ）、高杉暹元横浜市立大学長（二期Ａ）、緒方悦郎癌研究会付属病院院長（２期Ｄ）など優秀な生徒を多数輩出している。また現在も後輩たちが各界で活躍している。その意味でも、渋沢翁との宿縁の流れの下で、母校からも第２、第３の渋沢栄一が誕生するのを切望する次第だ。

（元紫筍編集長）

1899年（明治32年）	大谷派本願寺、東京真宗中学のための敷地として巣鴨に畑地6950坪を購入。
1903年（明治36年）	現在の母校の地に真宗中学が開校。校舎は木造瓦葺二階家建74坪。
1908年（明治41年）	真宗中学は廃校。東京養育院が購入。
1909年（明治42年）	5月東京養育院分院として開所式を挙行。
1940年（昭和15年）	第三東京市立中学校が開校。
1942年（昭和17年）	巣鴨分院は練馬区石神井台に移転。分院の一部は残った。
1945年（昭和20年）	3, 4月の東京空襲で校舎は灰燼となり消滅。関口台小学校で間借り授業開始。
1946年（昭和21年）	元町小学校に移転。
1953年（昭和28年）	戦後初の文部省による高等学校モデル校として新校舎が完成。8年ぶりに西巣鴨の地に復帰。

母校ルーツ詳細
★ http://www.bunkyo-ob.net/flash/70/his.html
紫筍53号26，27ページをご覧ください。
★ http://www.bunkyo-ob.net/pdf/53.pdf

25期

あの頃の文京

25期A組　谷　光夫

同窓会会報部に以前所属していた事から今年の会報誌「紫筍」「あの頃の文京」の25期生分を担当させていただく事になりました。谷光夫です。

今、現在68歳の私や同学年の方々は、昭和、平成、令和という３元の年号を過ごされて来たのですが、高校時代や青年期で経過した昭和という時代は実に激動的でした。

いわゆる団塊の世代が一段落して混沌としていた世の中が叙々に纏まり出して来た時で様々なところで色々な思考錯誤を繰り返し、今考えるとおかしな取り決めもありました。

都立高校の入試もそのひとつで、進学する高校を自分で決められない制度があり、文京高校は、第２、第４学区の92群（赤城台、向丘、文京）という中の１校でした。そんな制度の結果として行きたかった「文京高校」へ入学が決まった時は自分はラッキーと思ったのですが、入学当初の文京高校では校門近くの中庭でヘルメット姿のおそらく文京ＯＢの方が、大きな立て看板に過激な文言を赤ペンキで書き込み「僕自身……」と拡声器でがなっていて、これはとんでもない学校に入ったという印象が強かった事を覚えています。

私の記憶では１年生の時は、その様な学生運動の波にさらされて授業も度々無くなり、生徒会も無く色々な学校行事も少なかった様に思います。

クラブ活動を辞めれば、自由な時間を使い放題で楽しく過ごす高校生活の再スタートと思っていたのですが、時間が有っても夢中なものが無いというのは虚しいものでした。

もう一度部活に戻るという勇気も無く１日が凄く長く感じていました。

その様な暗い気持ちの時に在籍したクラスメイト達は、実に楽しそうに休み時間を過ごし、あの「僕自身……」という言葉を使って、とても生き生きとした生活を送っている様に見えクラス内の男女とも仲が良く和気あいあいとした雰囲気のクラスでした。

そんなクラスの一員になる事は抵抗感も無く、暗く怠惰に過ごしていた自分も自然と入り込んでいけました。

クラス替えが無く高校時代３年間過したので、私にとっての「あの頃の文京」は不思議と纏まりがあったクラスの思い出となります。

学生運動が落ち着いた２年生の時は、文化祭で「お化け屋敷」を、色々な仕掛けを考え公園へ行って落葉を大量に拾ったりして、夜遅くまで学校に残って作り上げたのは、１年の時に行事が無かった反動なのか夢中になったものです。

３年生の時は、自主映画を作り、ＪＲ（その当時は国鉄）に勤めている親御さんにお願いして駅の中で撮影したり、遠くまでロケの真似事をしたり最初のオープニングで、出演したクラス全員の名前を字が上手な女子が書き上げて、後撮りの音楽やセリフを入れてようやく完成しこれは、最高傑作と思ったのですが、他のクラスも映画を作成していて、その出来栄えが良くて「向こうは凄いね」と少し悔しい思い出となりました。

卒業前にはクラスだけのサイクリング遠足があり、自転車に乗れない人の練習を校内の中庭で皆で協力しあったという良い思い出もありました。

学業の方は、希望大学と自分の学力が離れていて予備校への行く事になるのですがクラスの皆とこの様に楽しく過ごせた高校生時代は本当に充実していました。

今あの頃のクラスメイトと会う事は懐かしさも有りますが、何か自分の中に活力を与えてくれます。

コロナでこの３年間は中止していたクラス会ですが、自分は永久幹事としてクラス会を続けて行きます。

私にとっての「あの頃の文京」は、一緒に３年間を過ごしたクラスメイトとの思い出です。

文京生の絆

三遊亭圓窓と「笑涯楽習」の会

文　責
11期　丸田　研一
文楽連資料提供
17期　浮島　恵子

写真提供　一般社団法人落語協会様

文京高校出身の落語家三遊亭圓窓こと橋本八郎君（11期）が亡くなった（2022年 9 月19日、81歳）。筆者は１年と３年のときに彼と同級であった。遠足のバスの中で小噺（こばなし）をするなど当時からその片鱗を見せていた。授業中のおしゃべりか何かで筆者と二人が廊下に立たされたこともある。在学中に春風亭柳枝の門をたたき、「卒業してからいらっしゃい」と言われ、卒業後に入門した。柳枝の死後、三遊亭圓生の門下となる。

彼を有名にしたのは日本テレビ「笑点」の大喜利出演（1970 ～ 77）だが、噺家（はなしか）圓窓としては「笑点の圓窓」と呼ばれるのを嫌っていたという。得意な噺の一つ「ぞろぞろ」が教科書に載ったり（教育出版・平成11年度版小学４年「国語」下）、「五百噺を聞く会」の開催（1973 ～ 2001）、各地の学校訪問など幅広く活動した。

2001年、落語好きの文京高校ＯＢが「文楽連」を立ち上げ、赤坂正雄先生らと共に圓窓は顧問になった。「文楽連」は、落語を聞く機会をもち落語を多くの人に知ってもらい、圓窓一門を応援することを趣旨としていたが、圓窓の提案で、他のＯＢも参加して「笑涯楽習」という勉強会を始めた。2003年から14年まで11回行われ（表参照）、「放課後」は大塚北口「鳥忠」で懇親会を楽しんだ。15年以後、関係者の高齢化などで会は行われなくなった。

筆者は「笑涯楽習」の講師のほか、定年退社直前に池袋西武デパートの「圓窓コミカレ（コミュニティカレッジ）五百噺」で、前座のような形で仕事関係の話をするように言われたことがある。

このように、圓窓は落語を通じて多くの人に声をかけ、一門会である「窓門会」に誘って落語を楽しませ、人にできるだけ役目を与えて生活に励みをもたらしてくれた。そのことが落語家三遊亭圓窓の一番の功績であると思う。

文京高校同窓会　「笑涯楽習」の記録

回	開催年	講　師	期	テーマ
1	2003	赤坂 正雄 先生	旧市立三中２	日本語の発音と解釈
2	2004	金子　国昭	11	江戸時代の文京高校界隈
3	2005	林 千枝（三浦千佳子）	24	家元の秘密と謎
4	2006	飯塚　和男	11	船の歴史と航海術
5	2007	丸田　研一	11	地名の話
6	2008	浮島　恵子	17	浮世絵
7	2009	武田洋一郎	11	著作権
8	2010	阿久津　博	17	万物の名称に見る自然との関わり
9	2012	青木　修	16	「地域寄席」にまつわる話
10	2013	駒野　欽一	17	外交官が見た、聞いた、体験した話
11	2014	斎藤　紀男	11	普通の人も宇宙へ行けます

＊2011年は教室が利用できず休講

「第２回『笑涯楽習』の会　2004年3月13日」　中央が講師の金子さん、その右が圓窓さん

■落語協会HP 三遊亭圓窓　https://rakugo-kyokai.jp
■橋本八郎紹介ページ　https://rakugo-kyokai.jp/variety-entertainer/member_detail.php?uid=15

文京生の絆

美術部OBの会「ともっち」

16期　鶴崎　洋子
19期　小田千代子

1963年　野反湖キャンプ

2005年
ともっち創設者の二人

「ともっち」は、7期（1955卒）～ 19期（1967卒）までの美術部に所属していたＯＢの集まりです。

会則もなにもなく、何となく出来た会ですが、60年以上、途切れることなく続いています。（現在会員20 ～ 30人位）会員資格は、ただ、美術部に所属していたことがある、ということだけです。

初めの頃は、卒業生が在校生に絵の指導をしたり、写生会を共にしたり、夏休みには合宿と称してＯＢ、現役一緒に、キャンプ場などへ２，３泊の旅行もしたり、ガリ版で文集も出したりしていました。

その関係が、そのまま途切れることなく続いて、2005年には、「ともっち展」と称して銀座で、グループ展を開いたこともあります。

また、美術関係の仕事についている方々の、個展や講演会、アトリエ訪問など、誘い合って参加したりして、2022年には、コロナ禍にも拘らず、箱根のPOLA美術館に特別出展されたＯＢの作品をみるために、16人もの大勢で行ってきました。

「ともっち」のメンバーには、東京芸大名誉教授で、「ともっち」創設者の一人でもある、銅版画家の中林忠良氏をはじめ、益子の陶芸家、漆芸作家、絵画、デザイン、造型、舞台芸術等々、プロとして活躍している人が多くいます。また、「ともっち」には、東京芸大に進学した仲間が７人もいて、都立の普通高校からとしては珍しいことと思われます。

しかし、全く、美術と無関係になったメンバーも、職業、年齢、区別なく、同じ仲間で、新年会、お花見会、暑気払い、忘年会と、何かにつけて、お酒を酌み交わし（別名アルコール研究会と名付け）世事を語り合う、大人の集まりを続けています。

今は、全員が70歳以上の高齢者になりましたが、集まれば高校生のままの顔になり、まだまだ、衰えることなく、元気で頑張っています。

文京高校があったからの「ともっち」に感謝です。

2013年　小川町紙すき体験

2022年　POLA美術館

2011年　町田版画美術館

2022年　POLA美術館

2012年　お花見会（井の頭公園）

2019年　夢科スキー園

2005年　ともっち展（銀座）

在校生野球部について

硬式野球部監督
34期　梨本　浩司

「周囲から応援されるチーム」になることを日頃から目指して

何としても 甲子園出場を果たしたい

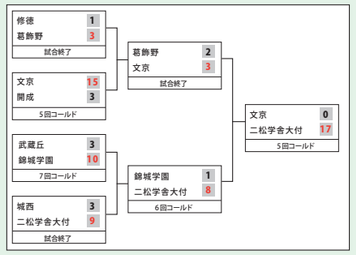
現在（令和４年12月）部員は３年生15名、２年生23名、１年生15名合計54名が所属しています。例年20人前後が入部してくれています。

現75期生野球部は入学当初から新型コロナ騒ぎで入学式も無く、休校続きでようやく通常登校できる頃には夏服着用期間になっていました。例年より少ない人数で出発しました。最初の公式戦夏の大会はなんと、甲子園大会は中止…インターハイも中止…という学年でした。

なんとなく不安だらけの学校生活がスタートしました。甲子園を目指す大会は中止になりましたが、東京大会は行われ初戦、二松学舎大付属高校と対戦し敗退しました。秋の新人戦はブロック予選を突破し64校で行われる都大会に出場するも、初戦、創価高に敗退。翌春、都大会初戦関東第一高に敗退。ここまですべて、強豪私立校に敗退が続きました。２年振りに行われた甲子園を目指す夏大会は初戦、日体大荏原高校。甲子園出場経験のある私立強豪校でしたが、なんとか粘り勝ち、その後勝ち進みベスト32で都立小山台に敗退。秋の新人戦は都立東大和に敗退、翌春、予選突破後都大会初戦は国士館高に敗退でした。ここまで、ある程度勝ち進んでも必ず、私立強豪校に連続で勝ち上がることが出来ません。この傾向は文京高校野球部創立以来80年間繰り返されている気がします。

そして75期生野球部最後の第104回夏の大会を間近に迫ったある時期に３年生部員からある提案をされました。「一人ひとりの部員たちと個人面談をして欲しい」数年前から部の組織を「練習提案委員」「学習風紀委員」「環境整備委員」等に分かれ部員たちの自主的な運営を行っていましたが、さらに部員たちから要望があり、指導者との意思統一が欲しかったのだと思います。指導者からの一方的な思い込みだけではなく、行う選手たち自身が動くチーム作りにする、現代のチームスポーツにおいては最重要課題だと感じます。約一週間位かけ、部員一人ひとりと面談を行いました。コロナ禍で練習休止になった期間も多く、自主練習の時間も例年より多くなってしまいましたが、選手たちがオンラインミーティングなども行い練習や試合が出来る喜びを例年より逆に大きく感じることができたのかもしれません。チームは３年生を主体に非常に良くまとまっていきました。

大会初戦、またも私立強豪岩倉高校と対戦、苦戦しましたが、何とか勝利しました。この試合１年生や２年生が多く出場しましたが、ベンチ内は３年生が一番声を出し続け全体の雰囲気がとても良かったです。上級生が主体となりチーム全体のまとまりを感じました。その後勝ち進み、ベスト８をかけた５回戦をサヨナラ勝ちした時はベンチ内選手、応援スタンドが一体となった素晴らしいシーンでした。感動しました。



文京高校野球部史上初の夏大会準々決勝進出!

対戦校は昨年度優勝校、二松学舎大付属高でしたが、惨敗しました。二松学舎大付属高はそのまま優勝し甲子園出場しました。

甲子園出場まで、遠い道程ではないと感じることが出来た年でしたが、まだまだレベルアップしなければならない部分があります。

私の指導者経験の中で、夏の甲子園大会に出場したことがあります。学校、地域、保護者、卒業生が一体となり大きな声援を得られて野球が出来る幸せなシーンでした。特に都立高校は地元出身者の集まりです。「周囲から応援されるチーム」になることを日頃から目指しています。

文京高校は自分の母校なのでそんな経験を是非、今の文京生にも味わってもらいたい。そのためにはやるべき事がまだまだあります。ここまで大変お世話になった野球部ＯＢ会、同窓会の方々に恩返しするためにも何としても甲子園出場を果たしたいと思っています。

コロナ禍の紫雲祭について

音楽科・吹奏楽部顧問
56期　白井　友貴

■ 2020年の紫雲祭

コロナ禍により、全校集会などは禁止となり、例年の９月開催ではなく、１月に体育館にて学年文化祭を開催しました。年末年始で感染者が急増し、再び緊急事態宣言が発出され、部活動は禁止のなか、なんとか開催できた学年文化祭でした。

各学年での動き　表①

	１年生	２年生	３年生
１月4日（月）	文化祭準備	文化祭準備	実施せず
１月5日（火）	発表	授業	実施せず
１月６日（水）	授業	発表	実施せず

保護者も含め外部公開は行われず、各クラス20分程度の持ち時間でクラスごとの発表になりました。準備期間が短いことや、発声の制限があり、映像作品が主でした。午前中に全クラスの公演、昼休みをはさみ、午後に部活動発表と片付けを行いました。感染症対策のため、公演中は声援などもなく、静かな文化祭となりましたが、その中で生徒はできる限りの成果を発揮しました。

■ 2021年の紫雲祭スローガン
「紫雲よ たなびけ！ むらさき式・文華の京都」

９月４日～５日に予定していた紫雲祭でしたが、緊急事態宣言が９月12日まで延長になり、学年ごとの文化祭になりました。

各学年での動き　表②

	１年生	２年生	３年生
9月4日（土）	午前オンライン参観 午後文化祭準備	午前文化祭準備 午後オンライン参観	文化祭
9月5日（日）	午前オンライン参観 午後文化祭準備	文化祭	午前文化祭片付け 午後オンライン参観
9月６日（月）	文化祭	午前文化祭片付け 午後オンライン参観	午前オンライン参観 午後自宅学習

保護者も含め外部公開は行われませんでした。全クラス体育館での公演で舞台演劇、映像作品が主でした。昨年度よりも舞台演劇が中心で、準備も夏休みから計画的に進めたクラスが多く、レベルアップしました。公演の他に各クラスからオブジェの製作と展示が可能ということで、１階の昇降口に展示されました。特に目立つオブジェでは「文華の京都」の象徴として、昇降口には二条城のオブジェが作成されました。

部活動の公演は体育館、視聴覚室、離れの３つで同時の時間での発表となりました。

■ 2022年の紫雲祭スローガン
「千紫万紅～咲き誇れ、僕らの青春～」

感染症対策のため、体育館、小体育館、視聴覚室、離れ１階の４会場を使っての全クラス舞台演劇公演となりました。外部公開は事前申込した保護者のみ可能としました。生徒は３年ぶりに、学年ごとの開催ではなく、全校生徒での開催になりました。

紫雲祭１日目の予定　表③

時間	体育館	小体育館	視聴覚室	離れ１F
8:50 ～ 9:20	3A	1A	2G	2C
9:30 ～ 10:00	3I	2H	1G	2D
10:10 ～ 10:30	3G	2B	2F	2A
10:40 ～ 11:00	3H	1F	1I	1B
11:20 ～ 11:25	にゅーいんほ	ヤクルト	演劇部	箏曲部
11:35 ～ 12:45	ダンス	scratch	のっぽとチビ	社会調査部
13:00 ～ 13:30	3D	1H	2I	1D
13:40 ～ 14:05	3F	1C	1E	2E
14:15 ～ 14:40	3C	3E	3B	
15:05 ～ 15:45	吹奏楽部	硬式野球部	軽音楽部	
15:55 ～ 16:15	チア			

「にゅーいんほ」は３年生男子による有志ダンス公演、「のっぽとチビ」は３年生による歌唱の公演など、有志団体も精選しつつも2021年よりも多くなりました。昨年度に引き続き舞台公演となり、舞台発表のレベルも上がりました。オンライン参観は引き続き可能になり、部屋に観覧者が多く、入れない場合はスマートフォンで観覧する生徒もいました。

令和５年度事業　奨学褒賞金授与者（褒賞金３万円）

難関大学進学者 6名

早稲田大学　文学部
　松本　渉(A組)75期

同志社大学　文学部
　小串　優輝(B組)75期

早稲田大学　教育学部
　西垣　伸彦(B組)75期

上智大学　神学部
　中山　怜奈(C組)75期

上智大学　文学部
　須和田　桜梨(E組)75期

早稲田大学　スポーツ科学部
　石井　航(F組)75期

国公立大学進学者 15名

北海道大学　総合文系
　小林　ゆうし(A組)75期

東京都立大学　経済経営学部
　山下　祥大(A組)75期

東京学芸大学　教育学部
　福澤　海里(E組)75期

東京藝術大学　音楽学部
　岩井　美嘉(F組)75期

埼玉大学 教育学部
　赤羽　倫奈(H組)75期

東京都立大学　健康福祉学部
　鈴木　詩桜利(H組)75期

秋田大学　理工学部
　竹中　敦彦(H組)75期

千葉大学　薬学部
　戸塚　海音(H組)75期

東京都立大学　健康福祉学部
　三井　月子(H組)75期

東京海洋大学　海洋生命科学部
　新村　珠希(Ⅰ組)75期

千葉大学　理学部
　瀬尾　恒成(Ⅰ組)75期

群馬大学　医学部　保健学科
　長野　明希子(Ⅰ組)75期

東京医科歯科大学　歯学部
　濵田　まり代(Ⅰ組)75期

東京学芸大学　教育学部
　松下　諒也(Ⅰ組)75期

宇都宮大学　地域デザイン科学部
　山本　晃規(Ⅰ組)75期

チャレンジ奨学金 2名

昭和大学　保健医療学部
　山本　実(G組)75期

東京家政大学　栄養学部
　相田　倫生(H組)75期

大学合格者数（令和4年度卒業生・75期生）

国公立大学

大　学　名	人数
北海道大学	1
秋田大学	1
筑波大学	1
宇都宮大学	1
群馬大学	1
高崎経済大学	1
埼玉大学	3
埼玉県立保健医療大学	1
千葉大学	3
電気通信大学	1
東京医科歯科大学	1
東京海洋大学	1
東京学芸大学	2
東京藝術大学	1
東京都立大学	4
東京農工大学	1
川崎市立看護大学	1
富山大学	1
都留文科大学	1
国立看護大学校	1
国公立大学　計	28

早慶上理＋ICU

大　学　名	人数
早稲田大	12
慶応大学	1
上智大学	6
東京理科大学	7
国際基督教大学	0
（小　計）	26

MARCHG

大　学　名	人数
明治大学	48
青山学院大学	13
立教大学	87
中央大学	25
法政大学	72
学習院大学	19
（小　計）	264

成成明獨國武

大　学　名	人数
成城大学	34
成蹊大学	11
明治学院大学	20
獨協大学	23
國學院大學	33
武蔵大学	39
（小　計）	160

日東駒専

大　学　名	人数
日本大学	96
東洋大学	200
駒澤大学	36
専修大学	50
（小　計）	382

その他の私立大学

大　学　名	人数
大東文化大学	52
東海大学	15
亜細亜大学	10
帝京大学	31
国士舘大学	6
芝浦工大	13
東京都市大	9
東京電機大	14
工学院大学	1
津田塾大学	2
東京女子大学	5
日本女子大学	17
その他	344
（小　計）	519
私立大学　計	1,351

教職員人事異動（令和５年度）

転　　出	転　　入
福島　泰直（校長・竹台）	浜崎　伸一（副校長・小松川）
田島　　豊（国語・葛飾総合）	久高　妃奈子（国語・新規採用）
錠　　幸雄（数学・退職）	福田　誠一郎（数学・白鴎）
鳥海　淳也（数学・江北）	井上　公介（数学・足立）
菅野　　緑（生物・赤羽北桜）	神沼　幸太（生物・杉並工業）
渡部　絹江（保健体育・板橋）	木下　理恵（保健体育・日比谷）
安富　良貴（英語・小笠原）	下川路　彩（英語・白鴎）
渡邊　　咲（英語・練馬工業）	清本　音々（英語・新規採用）
小宮山　知子（英語・退職）	伊藤　恵麻（英語・新規採用）
増田　節子（日本史・退職）	錠　　幸雄（数学・文京）
佐々木　吉孝（数学・退職）	中田　敏郎（英語・小松川）
中山　昌之（数学・退職）	佐藤　亜也子（地理・復帰）
丑久保　英世（英語・退職）	富田　孝則（生物・足立新田）
伊藤　麻紀（生物・産休継続）	岡田　慶吉（物理・北園）
品川　瑞奈（物理・育休継続）	
松崎　友紀子（地理・退職）	
徳江　将（生物・退職）	
田川　浩栄（物理・退職）	

東京校歌祭に参加して

21期D組　永山　加秀

令和4年11月３日、菊薫る旧明治節（文化の日）の杉並公会堂で開催された「東京校歌祭」に参加しました。

東京校歌祭は、青春時代を過ごした中学・高等学校の校歌を歌い継いで行くことを目的として、日本寮歌祭の弟分の意気込みで、平成５年に第一回を日比谷公会堂でスタートさせました。

コロナ下で２年続けて開催中止。紆余曲折を経て結局、参加の体制が取れる学校だけでもやろうというとことになり文京高校は参加を決断しました。本校からは、榊会長をはじめ30代から80代の26人が参加し、指揮は40期の安達氏、伴奏は音楽担当で56期の白井先生にお願いしました。①三中校歌②生徒歌③文京高校校歌の３曲を声高らかにマスクを外して歌い切りました。

ちなみに、私の校歌の好きな部分は【三中】でいえば「未来の日本　負い持つ民と　伸びて果さん　負荷の大任」であり【文京】では「広くゆたかに　希望を語れば　友情たえず　新たなり」です。それぞれの時代を映していて気に入ってます。

西、竹早、文京、武蔵丘、隅田川、豊多摩、第一商業、立川、小山台の９校参加は例年の半分以下でしたが、「やってよかったね」との感想を多くの人がもったようでした。

今年は、12月3日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センターで実施の予定です。多くの同窓生の参加をお待ちしております。

寄付者一覧（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

392名の方より運営資金1,355,848円、奨学報奨金1,131,000円のご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。
なお、今年度から寄付をお寄せいただきました皆様へのお礼状発送は中止させていただきます。

期	組	氏　名	運営金	奨学金
一	A	渡辺　元	1,000	
二	A	高杉　暹		3,000
二	A	登山　昌昭	2,000	2,000
二	E	飯坂　忠昭	3,000	
三	C	佐藤　有道	3,000	
三	C	佐藤　義江	5,000	
三	C	西条　侑作	1,000	1,000
三	E	永山　升三	2,000	
四	A	内田　訓行	2,000	
四	A	佐藤　哲	5,000	5,000
1	AB	久保　昌樹	10,000	
1	AB	小池　彰和	3,000	
2	A	大蔵丈大郎	10,000	
2	A	佐藤　裕	3,000	
2	C	笠原　春雄	1,000	
2	C	室伏　孝一	1,000	
2	D	石島　格	1,000	1,000
3	B	庄司　武夫	3,000	
3	C	真木　昭	1,000	2,000
3	D	中村　建美	1,000	1,000
3	E	五十畑宏一	10,000	
3	E	塚越　弘二	10,000	
4	A	肥田　浩一	3,000	2,000
4	B	海老原嘉雄	1,000	
4	C	古藤田汎達	3,000	
4	C	豊田恵之助	3,000	
4	C	南雲　勝洋	2,000	1,000
4	C	福本　健次	3,000	
4	E	野本　林	1,000	1,000
4	F	小林　祺明	2,000	
5	B	奥住　實	3,000	
5	B	真田　博通	1,000	1,000
5	C	島野良之右	2,000	1,000
5	D	鶴巻　格	5,000	
5	D	渡辺瑠璃子	2,000	
5	E	東　勇介	3,000	
5	E	熊谷　哲子	3,000	
6	A	椎橋　章二	5,000	5,000
6	A	橋本　文男		10,000
6	B	青柳　光信	2,000	
6	B	多田　實	3,000	
6	C	尾形　佳郎		10,000
6	C	岡部　好成	2,000	
6	C	若林　繁	3,000	3,000
6	D	塚田　達男	2,000	1,000
6	D	野呂瀬博道	1,000	9,000
6	D	岩木　里子	10,000	
6	D	吉川　悦子		3,000
6	E	船越　正雄	5,000	
6	F	倉沢　孝	1,000	1,000
7	A	野村　武彦	3,000	2,000
7	A	山本　茂雄	3,000	2,000
7	D	大野　隆雄		5,000
7	E	小倉　啓	1,000	2,000
7	E	立野　祥子	5,000	
8	A	中林　忠良	1,000	
8	A	松山　繁昭	2,000	2,000
8	B	鈴木　秀男	2,000	
8	B	丸山記久麿	1,000	
8	B	横山　芳昌	1,000	
8	D	斉藤　宏	3,000	
8	F	中野　英喜	10,000	10,000
8	F	山田都美枝	2,000	1,000
8	F	大沢　洋子	3,000	
8	F	小松　征子	3,000	
9	A	五十畑　誠子	5,000	5,000
9	B	石上　裕	2,000	2,000
9	B	種橋　秀章	30,000	30,000
9	B	増田　俊男	5,000	5,000
9	B	井上　孝子	3,000	
9	C	鈴木　昌夫	1,000	1,000
9	C	太宰　啓至	1,000	
9	C	西村　靖雄	3,000	
9	C	渡辺　勝久	5,000	5,000
9	D	永田　貴成	1,000	1,000
9	D	八木　章	1,000	1,000
9	E	中村　富秋	5,000	5,000
9	E	横田　雅子	10,000	
9	F	市丸　順司	1,000	
9	F	岡本　憲治	5,000	10,000
9	F	高橋　宏子	3,000	2,000
9	F	中林　慶子	1,000	
9	F	仁科　敏枝	7,000	3,000
10	A	大塚　和子	3,000	
10	B	吉川智恵子		10,000
10	D	近藤　紀夫	2,000	3,000
10	D	関根　五男	3,000	
10	D	藤崎　可雄	2,000	1,000
11	A	内山　盛雄	10,000	10,000
11	A	豊田　耕一	5,000	5,000
11	A	真部　允宏	1,000	
11	B	新井　定雄	10,000	10,000
11	B	安書　幸子		10,000
11	B	竹内　文子		10,000
11	B	藤田喜美子	3,000	
11	C	飯塚　和男	3,000	
11	D	荒井　和	15,000	10,000
11	D	佐々木　望	10,000	50,000
11	D	清水　美治	1,000	
11	E	門山　榮作	3,000	4,000
11	F	小熊　文隆	5,000	5,000
11	F	鈴木　晴夫	5,000	5,000
11	F	林田　有史	5,000	5,000
11	F	三井　徳子	10,000	10,000
12	A	高橋　清子	1,000	1,000
12	B	三好美都子		10,000
12	C	遠藤　隆	5,000	5,000
12	C	日比野　繁雄	2,000	3,000
12	D	加藤　国夫	1,000	1,000
12	D	滝谷敬一郎	2,000	
12	E	初芝　宣孝	10,000	10,000
12	E	園部　禮子	3,000	
12	F	渡辺美智子	10,000	10,000
13	A	増子　隆	3,000	5,000
13	A	真溪佐智子	1,000	
13	A	木村　輝美	3,000	
13	B	石渡　博之	5,000	5,000
13	B	山中　勝照	3,000	
13	B	田中　征江	3,000	
13	C	廣田　寿郷	5,000	
13	D	佐川　寛	3,000	3,000
13	D	梁池　忠夫	5,000	5,000
13	E	川村　幸子	1,000	
13	E	宇野　峰子	5,000	10,000
13	E	小川　紀代	3,000	3,000
13	F	高宮　三郎	6,000	10,000
13	F	野澤　克己	5,000	5,000
13	F	齋藤　和子	5,000	5,000
14	B	岡田　善行	3,000	
14	B	川辺　昇	10,000	10,000
14	B	正藤多紀子	1,000	
14	C	岩片　将士		5,000
14	C	上松　正明	10,000	
14	C	藤山　幸史	2,000	1,000
14	D	辻野　敬		2,000
14	D	吉川　忠男	3,000	
14	E	高井新一郎	3,000	
14	E	原田雄一郎	2,000	3,000
14	E	川崎　信子	3,000	3,000
14	F	大倉　忠広	3,000	
14	F	高岡　祥治	3,000	
14	F	柳沢　章	5,000	5,000
14	F	永田　文子	1,000	2,000
14	G	大橋千寿子	5,000	
15	A	松本　嘉章	2,000	1,000
15	A	河合　敏子	5,000	
15	A	本多　昭子	100,000	
15	B	西端　輝子	1,000	
15	C	野萩　勝利	3,000	2,000
15	C	藤田　進	2,000	
15	D	橋本　房子	2,000	1,000
15	E	新宮領　篁	3,000	
15	G	川島やす子	2,000	3,000
15	G	石嶋　光代	3,000	
15	H	米田　恭一	1,000	1,000
16	A	麻生　勝典	3,000	2,000
16	A	阿部　陽介	5,000	5,000
16	A	石塚　嘉典	2,000	2,000
16	A	大嶋　浩二	3,000	
16	A	酒寄　茂雄	5,000	5,000
16	A	宮内　宏三		1,000
16	A	藤原とし子	2,000	
16	B	南波　啓三	2,000	1,000
16	C	荻野　惇		100,000
16	C	小林　義弘		5,000
16	C	島田　怜子		5,000
16	D	竹野　登	2,000	1,000
16	D	吉川　和雄	1,000	
16	E	栽松　修	2,000	2,000
16	E	大川　衛	5,000	5,000
16	E	弓場美紗子	5,000	5,000
16	F	樋口　信子	3,000	
16	G	雨宮　喜仁	5,000	5,000
16	G	菊地　賢三	5,000	
16	G	田村　泰昭	1,000	1,000
16	G	関　美津子	2,000	
16	G	野田みや子	3,000	7,000
16	H	奈良　義明	2,000	
16	H	米沢　靖男	2,000	8,000
17	A	那須　妙子	1,000	2,000
17	B	志村　修	3,000	2,000
17	B	成川　吾郎	3,000	2,000
17	B	北島　綾子	2,000	1,000
17	D	倉形　健一	10,000	10,000
17	D	真塩　允久	1,000	1,000
17	E	中山　洋治	3,000	
17	E	小林　泰子	2,000	1,000
17	E	落合レイ子	2,000	5,000
18	A	小野口　修	15,000	15,000
18	A	柴山　一行	3,000	3,000
18	B	村山　清		5,000
18	C	青木久仁男	5,000	
18	C	大野　泰雄	2,000	2,000
18	C	木村　義信	5,000	10,000
18	C	山田　宣直	5,000	
18	C	関　千恵子	5,000	
18	D	後藤信太郎	7,000	3,000
18	D	藤原　泰子	3,000	2,000
18	E	伊東　英雄	1,000	1,000
19	A	中村　一昭	6,000	4,000
19	A	波多野光子	2,000	1,000
19	B	鈴木　茂	3,000	
19	B	村上　葉子	5,000	
19	D	大塩義一郎	1,000	
19	F	高橋　周	5,000	
19	F	田村　洋子	3,000	
19	G	大村　秀男	5,000	5,000
19	H	我妻　一夫	5,000	
19	H	稲見　一郎	3,000	3,000
19	H	金田　修一	3,000	
19	H	堀田　実	5,000	5,000
19	H	三輪　愼悟	3,000	2,000
19	I	倉島　清	3,000	
20	A	伊藤　俊一	3,000	
20	A	岩本　栄一	3,000	
20	A	工藤　貞江	3,000	
20	C	大里　悦子	1,000	
20	D	柏原　英明	848	
20	D	久保徳太郎	5,000	
20	D	田代久美子	3,000	
20	D	山本　幸子	1,000	1,000
20	E	内原　康雄	5,000	5,000
20	F	岩間　文人	5,000	5,000
20	G	佐々木達海	1,000	
20	G	田中　一郎	5,000	5,000
20	G	谷津　行穂	1,000	1,000
20	H	大野　透	5,000	5,000
20	H	熊野　活行	1,000	10,000
20	I	伊藤　雅章	2,000	2,000
20	I	山本　明	1,000	1,000
21	A	小林　孝平	10,000	
21	A	佐々木慎一	10,000	10,000
21	A	橋本　輝雄	1,000	4,000
21	A	古川　真	1,000	
21	A	依田　実	1,000	4,000
21	A	山岸　幸江	2,000	
21	C	木下　彰	10,000	5,000
21	C	茂木　幸蔵	3,000	2,000
21	C	日下部和子	1,000	2,000
21	C	加藤　和子	2,000	1,000
21	D	丹下　昇	3,000	2,000
21	D	永山　加秀	6,000	
21	D	長谷川裕子	1,000	
21	E	古賀　道明	5,000	5,000
21	E	清水　遵	1,000	
21	E	野尻　充孝	3,000	2,000
21	F	林　滋彦	10,000	30,000
21	F	石井　恵子	2,000	1,000
21	G	永井　秀和	5,000	
21	G	渡辺　吉章	1,000	
21	H	武村　道雄	2,000	
21	H	積田　政江	3,000	
22	B	村上　和夫	5,000	
22	B	大庭　緑	3,000	
22	C	尾谷　良子	2,000	2,000
22	C	富山　益代	1,000	2,000
22	D	新藤　茂男	3,000	
22	E	土屋　敏雄	3,000	
22	E	越後谷澄子		2,000
22	E	有野　博子	3,000	2,000
22	E	羽根井弘子	1,000	1,000
22	F	伊東　久寿	1,000	2,000
22	F	嶋方　猛	1,000	2,000
23	A	春木　直治	3,000	3,000
23	A	藤代　雅美		1,000
23	B	秋山　豊	2,000	1,000
23	C	持永　和明	3,000	3,000
23	C	中川　和子	3,000	2,000
23	E	中井　壽子	3,000	
23	E	清水　洋子	3,000	
23	H	柴田　欣治	3,000	
24	A	小笠原邦久	3,000	
24	A	櫛田　篤美	3,000	
24	A	武田　充博	5,000	
24	A	諏訪部照久		5,000
24	D	片桐　弘	3,000	
24	D	川村　幸夫	5,000	5,000
24	D	波多野義和	3,000	
24	E	杉本　等	1,000	
24	F	田中　映二	5,000	5,000
24	F	田辺　恵子	1,000	
24	G	澤田　建二	1,000	
24	G	古橋　健一	5,000	5,000
24	H	太田　治	3,000	
24	H	鳴海　彰	3,000	
24	H	平尾　正春	5,000	
24	H	宮本外喜男	3,000	
25	A	海老沼正和	2,000	1,000
25	A	柏原　久幸	1,000	1,000
25	A	谷　光夫	3,000	
25	B	加藤　信淨	2,000	2,000
25	B	岸　寛	2,000	1,000
25	B	松本　一之	2,000	1,000
25	C	宮川美知子		50,000
25	D	中野　美彦	5,000	1,000
25	D	渡辺　一雄	2,000	1,000
25	F	星野　明彦	2,000	1,000
25	G	関　誠	6,000	4,000
25	G	東　恭子	50,000	
25	H	加賀美健二	5,000	5,000
25	H	渡辺　信吾	2,000	2,000
25	I	稲垣　恵子	1,000	
26	A	山中　一江	1,000	2,000
26	C	高崎　稔	3,000	1,000
26	D	渡邉　均	3,000	2,000
26	E	笠原ちさと	1,000	1,000
26	F	大島利英子	1,000	3,000
26	F	泉水　純子	3,000	
26	F	姫野　敦子	3,000	
26	G	西　乾二郎	3,000	
26	G	秋山　友美	3,000	30,000
26		匿名希望	3,000	
27	B	松井　利彰	3,000	
27	E	雨宮　和美	3,000	2,000
27	E	中村　由比子	1,000	1,000
27	H	関本　浩貴	3,000	
28	B	加藤　洋司	5,000	5,000
28	B	種田けい子	2,000	2,000
28	B	島田　光子	5,000	5,000
28	C	古賀　正義		1,000
28	D	尾沼　涼	3,000	2,000
28	F	大関　邦子		3,000
28	G	太田　実	1,000	
28	H	吉田　均	3,000	3,000
28	H	宮本美代子	1,000	1,000
28	I	竹之内由季	1,000	
29	C	綿引　一夫		5,000
30	B	平野　光一	3,000	
30	F	西山　勲	1,000	
30	G	鼻田　義郎		5,000
30	H	斉藤　正治	3,000	2,000
30	H	高崎　忠道	10,000	10,000
30	H	西山　良枝	3,000	
31	A	杉田　広樹		30,000
31	E	塚越　淳	3,000	
31	F	松山　光男	1,000	2,000
31	H	名古屋　勝	3,000	2,000
32	A	本橋千枝子	1,000	1,000
32	C	渡辺　哲也	1,000	
32	D	飯田　恭二	1,000	1,000
32	D	関沼　達司		5,000
32	D	早尾　恭一	5,000	
32	H	小俣みち子	5,000	5,000
33	E	中島　恵子		5,000
33	I	油井　清恵	3,000	
34	A	中山　裕久	3,000	
34	E	関口　研二	3,000	2,000
34	I	柴下　幸恵	1,000	4,000
35	C	小澤　晴美	1,000	1,000
35	E	浅香　清美	1,000	5,000
35	H	橋田　良永	3,000	7,000
35	H	会場　真美	2,000	1,000
36	A	大場　裕介	3,000	
36	B	上岡　昇二	3,000	3,000
36	B	正司　浩一	3,000	2,000
36	B	園部　正子	3,000	2,000
36	D	西山　優子	1,000	1,000
37	B	真貝　光輝	3,000	7,000
37	D	伊藤　規子	5,000	
37	I	内藤　和男	3,000	2,000
39	C	小野　文子	1,000	1,000
39	F	菊池二三男	1,000	1,000
39	F	土田　絹子	1,000	1,000
39	G	小甲　和恵		3,000
40	A	佐々木高志	10,000	
40	D	本庄　恵	10,000	
40	F	高木　園子	1,000	4,000
40	G	高須　弘子	1,000	2,000
43	E	小森　豊	10,000	10,000
43	I	鈴木　義仁	5,000	5,000
44	F	内田　繭	2,000	
50	H	鈴木　祥子	1,000	
52	G	宮川　学	10,000	10,000
56	B	須藤　拓也	4,000	4,000
56	F	三浦　義正	3,000	1,000
62	C	田村安祐美		3,000
63	C	長谷川竜之介	1,000	1,000
65	F	増田　泰大	3,000	2,000
66	H	石合　崇人	1,000	
68	C	金親　杏	1,000	1,000
68	I	森本　真弥	5,000	5,000
69	A	田村奈々美		2,000
69	E	森田　悠紀	1,000	2,000
69	G	須田　薫平	1,000	
69	H	土谷　和史	1,000	
71	B	野村　光彦	1,000	1,000
71	H	出光　陽		1,000
74	A	ダウラ　ガク	1,000	1,000
74	B	後藤　三城	1,000	
74	H	冨生　秀昭	1,000	
顧証		鈴木喜太郎	3,000	
教員		羽生　和政	1,000	
392 名			1,355,848	1,131,000

寄贈　「化学と教育」永山　升三氏（三期E組）jocs.jp/masters/nagayama0338e.pdf

令和５年度 都立文京高校同窓会 予算案

令和５年４月１日 ～ 令和６年３月 31 日

会長　榊　恒一（26 期Ｆ組）

（単位：円）

【収入】

科　目	予　算　額
前年度繰越金	10,800,040
運営協賛金	1,500,000
広告掲載料	0
集い会費	0
預金利息	0
その他（寄付等）	0
小　計	12,300,040
同窓会入会金	（340名） 5,610,000
合　計	17,910,040

【支出】

科　目	予　算　額
会報発送費	2,000,000
名簿作成費	90,000
会報制作費	1,210,000
ホームページ運営費	25,000
集い開催費	1,200,000
紫雲祭参加費	50,000
校歌祭参加費	140,000
生徒支援事務費	60,000
母校支援費	800,000
交流会支援費	200,000
総代会開催費	30,000
同窓会運営費	400,000
周年行事積立金	200,000
予備費	5,895,040
合　計	12,300,040

令和４年度 都立文京高校同窓会 決算報告書

令和４年４月１日 ～ 令和５年３月 31 日

会計部長　隅田　彰子　（25 期Ｇ組）

（単位：円）

【収入】

科　目	決　算　額
前年度繰越	9,952,018
入会金	（280名） 4,620,000
運営協賛金	1,355,848
広告掲載費	0
集い会費	0
預金利息	52
合　計	15,927,918
単年度合計	5,975,900

【支出】

科　目	決　算　額
会報発送費	1,868,231
名簿作成費	90,000
会報制作費	1,204,500
ホームページ運営費	24,960
集い開催費	313,848
紫雲祭参加費	0
校歌祭参加費	13,880
生徒支援事務費	42,500
母校支援費	800,000
交流会支援費	0
総代会開催費	26,021
同窓会運営費	503,938
周年行事積立金	200,000
予備費	40,000
合　計	5,127,878
繰越金（初期運営費）	10,800,040

奨学金基金

前年度残	収　入		支　出		本年度残
8,575,985	利息	67	小論文	0	8,750,052
	奨学賛助金	1,131,000	難関大学進学	720,000	
			卒年表彰	237,000	

基本財産明細

科　目	前年度残	増　減	本年度残
定額預金	34,888,914	1,096	34,890,010
周年行事積立金	400,000	200,000	600,000
財産目録合計	35,288,914	201,096	35,490,010

令和５年３月 31 日
令和４年度会計報告を以上の通り申し上げます。
会計部長　　隅 田 彰 子

令和５年４月８日
監査の結果以上に相違ないことをご報告申し上げます。
監　　査　　浅 野 俊 雄
監　　査　　大 野　　透

令和５年度(2023)　学　年　幹　事

期	卒業年	氏名	組
一	1945 (S20)		
二	1945 (S20)		
三	1946･7 (S21･22)	小室　陽一	E
四	1948 (S23)	高橋　　明	A
1	1949 (S24)	信田　重昭	AB
2	1950 (S25)	横沢　靖夫	C
3	1951 (S26)	太田　敏夫	A
4	1952 (S27)	海老原嘉雄	B
5	1953 (S28)		
6	1954 (S29)	椎橋　章二	A
7	1955 (S30)		
8	1956 (S31)	鈴木　秀男	B
		小林　計夫	C
9	1957 (S32)	石川　有二	B
		岡本　憲治	F
10	1958 (S33)	石塚　　浩	A
		和田　為義	D
11	1959 (S34)	飯塚　和男	C
		大澤　昌平	C
12	1960 (S35)	島田　承男	D
13	1961 (S36)	鈴木　　孝	C
		竹中　水及	C
14	1962 (S37)	桜井　　勇	E
15	1963 (S38)	松本　嘉章	A
		尾長　義之	H
16	1964 (S39)	大川　　衛	E
		竹本　　悠	G
17	1965 (S40)	稲見　昌徳	H
18	1966 (S41)	金木　　徹	B
		宮本　　智	H
19	1967 (S42)	安達由美子	F
		三輪　慎悟	H
20	1968 (S43)	山元　幸子	D
		庄司　文隆	H
21	1969 (S44)	永山　加秀	D
		水村　俊雄	I
22	1970 (S45)	矢島　　誠	D
		飯塚　嘉平	D
23	1971 (S46)	飯沼　美雄	C
		渡部　　曜	H

期	卒業年	氏名	組
24	1972 (S47)	椿　　光弘	H
		中澤　淳子	I
25	1973 (S48)	谷　　光夫	A
		荒井三紀夫	B
26	1974 (S49)	高崎　　稔	C
		荒井　快夫	F
27	1975 (S50)	相川　智行	B
		石渡　政嗣	B
28	1976 (S51)	湯沢　一夫	A
		相川　史江	A
29	1977 (S52)	青木　正治	A
		齋藤　智夫	F
30	1978 (S53)	本城　玲子	C
		島田正由美	H
31	1979 (S54)	鈴木　晶子	A
		三井　由美	A
32	1980 (S55)	田中　祥一	C
		兼坂比呂美	C
33	1981 (S56)	高橋　寿子	A
		牧田　清美	D
34	1982 (S57)	川口　和哉	B
35	1983 (S58)	吉井久仁子	A
		増川　英治	H
36	1984 (S59)	宮原　裕行	D
		長崎　雄三	F
37	1985 (S60)	安積　陽子	A
		真貝　昌美	B
38	1986 (S61)	平出裕美子	E
		野尻　嘉平	G
39	1987 (S62)	小甲　和江	G
		横堀　幸男	I
40	1988 (S63)	星　　達樹	B
		高木　園子	F
41	1989 (H 元)	武　　信男	A
		山田　泰斗	B
42	1990 (H2)	樽美　理恵	C
		爲國　孝久	D
43	1991 (H3)	成田　知美	A
		小森　　豊	E
44	1992 (H4)	安達絵美子	B
		永松新太郎	E
45	1993 (H5)	浅尾　圭英	C
46	1994 (H6)	富田まこと	E
47	1995 (H7)	内藤　裕義	B
		山内恵美子	B
48	1996 (H8)	日下　　直	B
49	1997 (H9)	中本　照子	F
		葛西　古都	G
50	1998 (H10)	小川　六月	C
		片岡　優華	H

期	卒業年	氏名	組
51	1999 (H11)	大山　浩太	B
		加納　智子	C
52	2000 (H12)	森本　隆介	D
		宮川　　学	G
53	2001 (H13)	齋藤　理世	A
		福島　次郎	A
54	2002 (H14)	後藤　淳也	B
		中上　育実	E
55	2003 (H15)	三浦　克美	A
		下村　　朗	G
56	2004 (H16)	三田　正人	D
		三浦　義正	F
57	2005 (H17)	大石　知弘	B
		松岡　俊樹	C
58	2006 (H18)	石田　和利	E
59	2007 (H19)	片岡　忠夫	B
60	2008 (H20)	竹内　邦彦	A
		山崎　達也	A
61	2009 (H21)	塚越　　航	E
		赤坂　光穂	E
62	2010 (H22)	浅川　大輔	B
		澤野　まゆ	D
63	2011 (H23)	本石千可子	A
		古川　寿輝	D
64	2012 (H24)	武政絢太郎	B
		田部　　葵	B
65	2013 (H25)	磯山　奈美	A
		納富　浩雄	H
66	2014 (H26)	髙橋　里菜	D
		髙橋　健太	E
67	2015 (H27)	植田　夏希	C
		白須　一馬	G
68	2016 (H28)	三友真一郎	B
		澤田英里香	B
69	2017 (H29)	恩田　優也	E
		渡邉　由妃	H
70	2018 (H30)	髙野　　遥	A
		黒井　悠生	F
71	2019 (H31)	本間　天翔	G
		小松　明莉	G
72	2020 (R2)	長谷川　晃	F
		白井　美咲	G
73	2021 (R3)	古坊　充輝	C
74	2022 (R4)	德田　容大	C
		田島　千鈴	D
75	2023 (R5)	松本芙羽子	A
		安居　知哉	D

令和５年度(2023年度)　文京高校同窓会　役員・常任幹事

顧　問	太田　敏夫	3 期A
〃	若尾　迪治	10 期A
〃	君崎　悦子	11 期E
〃	杉本　安弘	12 期C
〃	小林　洋一郎	18 期B
会　長	榊　　恒一	26 期F
副会長	隅田　彰子	25 期G
〃	小川　智美	36 期E
〃	爲國　孝久	42 期D
総務部　部長	内河　　敦	34 期D
副部長	中西　良美	27 期C
会計部　部長	隅田　彰子	25 期G
副部長	小野　一美	30 期A
会員部　部長	大堀　真敬	20 期H
副部長	近澤　昭一	36 期E
会報部　部長	中嶋　美地世	20 期H
副部長	兼坂　比呂美	32 期C
ＨＰ部　部長	爲國　孝久	42 期D
副部長	三輪　慎悟	19 期H
集い部　部長	今岡　美子	34 期C
副部長	田中　祥一	32 期C

催事部　部長	永山　加秀	21 期D
副部長	荒井　快夫	26 期F
生徒支援部　部長	小川　智美	36 期E
副部長	鈴木　晶子	31 期A
監　査	浅野　俊雄	20 期G
	大野　　透	20 期H
常任幹事	中村　富秋	9 期E
〃	大川　　衛	16 期E
〃	梶野　茂男	19 期A
〃	石井　之子	24 期H
〃	橋立　弘子	28 期C
〃	根木　敏孝	28 期G
〃	三井　由美	31 期A
〃	吉井　久仁子	35 期A
〃	葛西　古都	49 期G
在校 OB 教諭	梨本　浩司	34 期A
〃	白井　友貴	56 期B

令和５年度「第75回総代会」報告

令和５年度「第75回総代会」が令和５年４月16日に文京高校にて開催されました。
会長挨拶に続き岡田校長先生、浜崎副校長先生にご挨拶をいただきました。
議案審議に移り

第１号議案　　令和4年度事業報告　承認
第２号議案　　令和4年度決算報告並びに監査報告　承認
第３号議案　　令和5年度会長　役員　承認
第４号議案　　令和5年度事業計画（案）　承認
第５号議案　　令和5年度予算（案）　承認

全ての議案が承認され総代会を終了いたしました。

令和５年度主な行事予定

６月初旬　　会報誌「紫筍第66号」発行
９月９日（土）～10日（日）「文京高校紫雲祭」　参加
10月15日（日）「第31回同窓生の集い」　文京高校体育館
12月３日（日）「第31回東京校歌祭」　参加

交流会支援再開しました。詳細はホームページをご覧ください。

同窓会を楽しい憩いの場にするために お手伝いをしてくださる方を募集しています。

同窓会の役員・常任幹事会は年 10回、zoomでも参加可能です。
参加の方法はいろいろ、お声をお待ちしています。

副会長の仕事

会則には、『副会長は会長を補佐し、会長の事故ある場合は代理を務める』とあります。さらに今年度は、副会長三人体制となりましたので各々
●会計部、催事部　●生徒支援部、総務部、集い部
●ホームページ部、会員部、会報部をサポートできるようになりました。常任幹事の引退により、即戦力を求めている部もあります。私達と一緒に同窓会を運営していただける方を募集しています。各部の活動に関心のある方、参加してみたいと思われる方はぜひ、お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

集い部

集い部はいわゆる同窓会を年に一度実施するのが9割がたの仕事です。この３年間は社会状況を考慮して開催を見送って参りましたが、今年は実に4 年ぶりとなる「同窓生の集い」を是非とも実現したいと思いますので、御支援の程、宜しくお願いいたします。

会計部

『本会の資産および金銭収支の管理をし、予算の立案・決算の報告をする』
具体的には　1. 領収書に基づき役員・常任幹事会において活動費を支払う　2. 請求書に基づき業者さんへの支払い　3. 奨学金基金より生徒支援部への支払い　4. 寄付金、各種入金の確認、管理
毎年、ありがたいことに紫筍発送直後から寄付振替受払通知票が届き感謝の気持ちを込めながら入力する毎日が続きます。と、ここまでは毎月の作業です。
会計部が特に忙しくなるのは…年度末です～～
5. 決算報告書の作成（3月末日〆）　6. 会計監査（4月上旬）を受ける　7. 総代会（4月中旬の日曜日）において決算報告（来年度予算は会長から）
ということで次の1年間がスタートします。

総務部

総務部の主な活動内容は以下になります。
「各会議の案内及び会議の運営並びに議事の記録をする」と会則にもあるように、月１回の役員・常任幹事会の案内及び会議の運営並びに議事の記録を取ること、学校との連絡、HPに入る問い合わせの対応など同窓会業務のさまざまなサポートを行っています。
同窓会のメンバーは幅広い年代で構成されており世代を超えて親睦を深めることができます。同じ学校を卒業しただけで集まった仲間が同じミッションに挑むために結束する。これは会社や同世代の友人間では味わえないものです。職種や年代を超えたコミュニケーションの素晴らしさや人脈構築ができます。現在、同窓会を手伝っていただける方を募集してます。
総務部に限らす同窓会の活動に興味のある方、同窓会に貢献したいと思っている方など、一緒に活動してみませんか、最初は見学からでも大丈夫です。お気軽にHPから問い合わせ下さい。連絡お待ちしてます。

ホームページ部

同窓会のホームページの運営管理を担当しています。ホームページは会員の皆さんとの連絡や告知などに活用されています。また、各部からの告知や申し込みページなども都度更新しています。文京高校同窓会のWEBサイトはインターネットで最も利用されているWordPressで構築されています。ホームページの構築に興味ある方、自分でブログを作成している方など、同窓会の打ち合わせに参加することは難しくても、パソコンやインターネット、e-mailなどを活用して活動にご協力いただける方はぜひご連絡ください。

お手伝いをして下さる方はこちらから

生徒支援部

生徒支援部では、主に進学者への奨学金募集、授与決定者への連絡や授与準備、卒業時に３年間の成績優秀者・皆勤者への表彰準備を行っています。在校生への支援も検討中です。
母校や先輩・後輩の皆さまの声をつなぐことができたらと思いながら活動しています。
私たちは卒業後しばらく経っておりますが、気持ちは在校生の頃と変わらないつもりです。母校、同窓生、在校生をつなぐ活動を一緒にしてみたい方、お声がけください。

会報部

会報誌「紫筍」を編集、発行が会報部の仕事です。
多くの方のご協力があって、一冊の本が出来上がります。
普段お会いできない多くの方とお会いし、貴重なお話をお伺いできることで、沢山の感動もいただけます。この感動を皆様と分かち合えたらと存じます。
会報制作をご一緒できる方のご連絡をお待ちしております。今号も貴重なお時間と素晴らしいお話を皆様からいただき、発行することができました。心からお礼申し上げます。

催事部

催事部は文京高校紫雲祭と東京校歌祭の2つの行事を担当しています。
紫雲祭は母校の歴史や同窓会活動の紹介を教室に展示し在校生、卒業生及びPTAなどに同窓会の存在を周知することを目的に平成17年９月から参加しています。
東京校歌祭は府立・市立・私立の旧制中学校の卒業生による校歌を歌う音楽祭で平成６年秋から参加しています。曲目は昭和15年創立時の「三中校歌」、昭和30年からの生徒歌」、そして昭和４３年からの「文京高校校歌」、計３曲です。参加者は卒業生と現役の吹奏学部の生徒と指揮の音楽教諭です。3曲とも同窓会のホームページに掲載しています。

会員部

会員部の仕事は会員名簿データベースの管理、会報誌「紫筍」の発送、新卒業生の名簿作成、発送、次期卒業生の入会募集などを行っています。